

梅抽出物が不妊治療に効果 和歌山市の産婦人科がみなべの業者と開発

おすすめ

シェア

118

ツイート

28

Yahoo!ブックマークに登録

梅の抗酸化作用が不妊治療に効果があることが、和歌山市の産婦人科医院の研究で分かった。同医院とみなべ町の梅加工販売業、紀州ほそ川が共同開発した梅抽出物（特許出願中）を、難治性の不妊患者に飲んでもらったところ、高い確率で妊娠に成功したという。



不妊に悩む夫婦が増え、いま6～8組に1組が該当すると言われている。背景に晩婚化に伴う高齢出産の増加がある。年を重ねることで、女性の卵子の老化が進み、卵子の質が低下することが原因とみられる。

研究成果を発表したのは和歌山市の産婦人科医院「うつのみやレディースクリニック」（宇都宮智子院長）。論文が3月の「日本受精着床学会雑誌」に掲載された。

体外受精、顕微授精の高度不妊治療を複数回受けても妊娠が成立しなかった難治性不妊患者を対象に同医院が効果を検証。33～43歳、平均39・4歳の17人に2カ月間、女性ホルモン（DHEA）サプリメントを飲んでもらったところ、4割に当たる7人が妊娠。妊娠に至らなかった10人のうち、同意を得た7人に2カ月間、DHEAと梅酢を濃縮脱塩して加工した梅抽出物を飲んでもらったところ、5人が妊娠に成功した。

梅抽出物を服用することで、卵子の周囲にあって卵子を成熟させ、受精を助ける顆粒（かりゅう）膜細胞が元気なまま保たれることが分かったという。

宇都宮院長は、なぜ効果があったかについて「梅の抗酸化作用で卵子の老化が緩やかになり、卵質の向上につながったのではないか」と話している。



うつのみやレディースクリニックが研究に使用した梅抽出物は、紀州ほそ川の関連会社「ワノミライカ」（みなべ町晩稻）が「ウムリン」という商品名で販売している。

【梅抽出物を飲んだ患者の卵巣の状態を確認する宇都宮智子院長（和歌山市で）】

(2014年07月02日更新)